

学部4回生・大学院生のための
日本語文献探索のキソ

卒論・研究きちんとスタート!シリーズ①

2021.6 大阪大学総合図書館 学習・調査支援担当

皆さんこんにちは。

E-learning教材「卒論・研究きちんとスタートシリーズ① 学部4回生・大学院生のための日本語文献探索のキソ」を始めます。

主に、人文・社会科学系の4回生・M1くらいの方を念頭に置いた内容になっております。

卒論・研究きちんとスタート！ シリーズのラインナップ

- ①学部4回生・大学院生のための日本語文献探索のキソ
必要と思われる文献の書誌情報を得る
- ②学部4回生・大学院生のためのフルテキスト入手法
得た書誌情報をもとに実際に論文を入手する

卒論・研究きちんとスタート①日本語文献探索のキソ

本シリーズ「卒論・研究きちんとスタート」は2つの教材から構成されています。

1つ目が、この教材「学部4回生・大学院生のための日本語文献探索のキソ」です。

文献探索を行い、自分にとって必要と思われる文献の、書誌情報を得る方法を学びます。書誌情報とは、論文のタイトル、著者名、雑誌名といった情報のことです。

2つ目は、「学部4回生・大学院生のためのフルテキスト入手法」という教材です。

文献探索を行った結果として得られた、論文の書誌情報をもとに、実際に論文を入手する方法について詳しく学びます。

このように、文献情報を探すというプロセスと、実際にその文献を入手するというプロセスを、2つの教材に分けて解説してゆきます。

本講習会の目標

学習目標1：先行研究調査とは何かを知り、その意義を説明できるようになる

学習目標2：「芋づる式」調査の方法を理解し、先行研究調査に活用できる

学習目標3：文献データベースの効果的な利用方法を理解し、先行研究調査に活用できる

卒論・研究きちんとスタート①日本語文献探索のキソ

この教材の学習目標はこの3つです。

前置きは良いから、「とりあえず、効率的に文献を検索する方法を教えてほしい」と思われるかもしれません。

しかし、先行研究調査の意義と全体像を理解してから文献探索を行わないと、必要な文献を取りこぼしてしまう可能性が高くなります。

ですので、学習目標1を踏まえた上で、学習目標2・3で示しているような2つの文献探索アプローチを学んでいきます。

本講習会の構成

- I. 先行研究調査とは何か
- II. 「芋づる式」による先行研究調査
- III. 文献データベースについて（概要）
- IV. 文献データベースによる日本語論文の先行研究調査－CiNii Articlesを事例に
- V. 文献データベースによる日本語図書の先行研究調査

卒論・研究きちんとスタート①日本語文献探索のキソ

本教材の構成としては、このような形です。
第1章が学習目標1に、第2章が学習目標2に、第3章から第5章が学習目標3にそれぞれ対応しています。

I. 先行研究調査とは何か



それでは、さっそく第1章「先行研究調査とは何か」を始めていきます。

先行研究調査とは？

自分の研究したいテーマについて、
どのような研究がすでに為されているのかを把握すること

【手段】文献を「適切に」集めて読む

なぜならば、研究は、基本的に雑誌論文や学術書など「文献」の形で発表されるから。

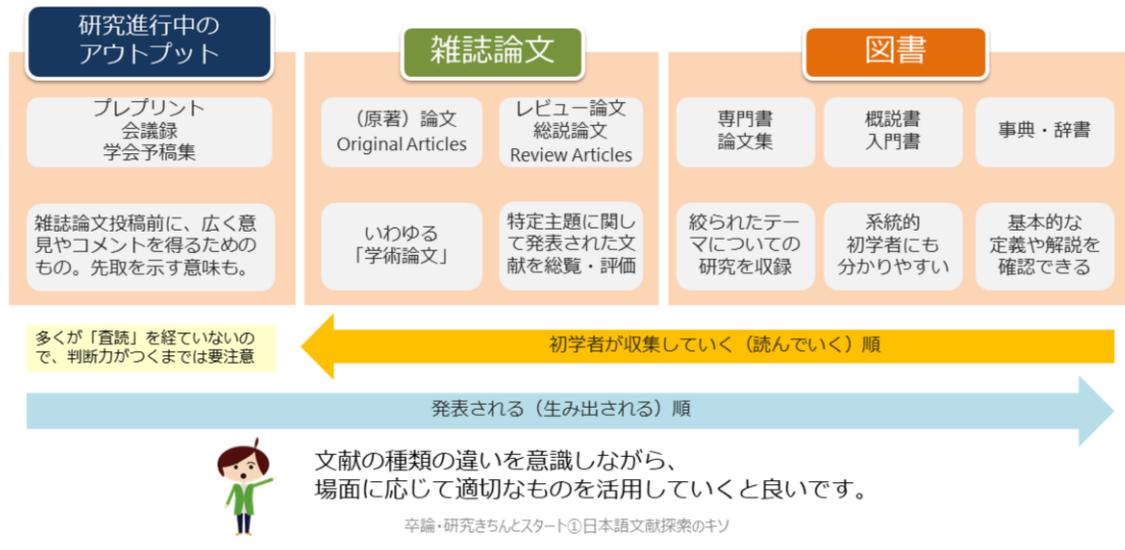
卒論・研究きちんとスタート①日本語文献探索のキソ

皆さんが論文作成や研究を行う時に、先行研究調査を行う必要があるのはなぜでしょうか。

「先行研究調査」とは自分の研究したいテーマについて、どのような研究がすでに為されているのかを把握することであり、研究の最初に踏むべき手順と言えます。

そして、研究は主に、雑誌論文や学術書などの文献として発表されるので、文献を「適切に」集めて読むことがその基本的な手段となります。この教材を通じて、文献を「適切に」集める、ということがどういうことであるのかを理解していただければと思います。

研究の流れと学術文献の関係を意識して使い分ける



一口に「学術文献」といっても、さまざまな種類があり、主なものはこちらです。

生み出される順と読んでいく順が逆であることに気づきましたか？
その研究が生み出されてから、時間がたてばたつほど議論が深まり、議論を経てまとめられた文献が登場してきます。

先行研究調査というと、論文を探して読もう、と思ってしまいがちです。しかし、その専門分野をこれから学習して行こうという皆さんにとっては、まずは事典や辞書、概説書や入門書など、系統的にまとまった資料から読んで理解を進めていくのがよいでしょう。こういった事典や辞書を確認していくことから、先行研究調査は始まっていくのです。

先行研究調査の意義：「学習者」として

自分の研究テーマ周辺の全体像をつかむ

学習として（既存の認識や専門用語を知る）
研究史を把握する
調査手段や分析手段を知る

事典類や概説書で、
定義や解説、研究史を理解する。
↓
専門書や論文で、
研究における実際の活用事例を知る。

先行研究の限界や問題点・意見が対立している点を整理する

自分の研究テーマを設定していく・絞っていくための大きな手掛かりとなる
⇒研究者としての意義にもつながる

卒論・研究きちんとスタート①日本語文献探索のキソ

先行研究調査には、学習者としての意義と研究者としての意義があります。

まずは「学習者」としての意義です。先行研究調査は、自分の研究テーマ周辺の全体像をつかむことにつながります。

先行研究を読むことで、その分野における既存の認識や専門用語、研究史、調査手段や分析手段を学ぶことができます。

最初に事典類や概説書で定義や解説・研究史を読んで基本を理解した上で、専門書や論文に進み、実際の研究の中でどのように用語や理論、調査・分析手段が活用されているのかを知っていくようにすると良いでしょう。

さらに、先行研究の限界や問題点を整理することもできます。

このことは、自分の研究テーマを絞っていくための大きな手掛かりとなりますので、研究者としての意義にもつながっていくといえるでしょう。

研究者によって意見が対立している点にも着目・整理しておくことで、テーマ設定の助けになるでしょう。

先行研究調査の意義：「研究者」として

自分の研究テーマが「新しい」ことを確認し、他者に示すために

研究 = 既存の知識・認識に新しい知識・認識を追加すること

「新しさ」もさまざま：事象として、理論として、切り口として

論文では、既存の知識・認識を示したうえで、「新しい」知識・認識を論証していく



卒論・研究きちんとスタート①日本語文献探索のキソ

先行研究調査の「研究者」としての最大の意義は、このスライドで示している点です。

研究とは、既存の知識に「新しい」知識を追加することです。「新しく」無いと研究とは言えないわけです。

何が新しい知識かどうかを判断するためには、既存の知識である先行研究をできるだけ広く調査するしかありません。

必要とされる「新しさ」は研究分野によっても違いますし、研究者としての段階によっても違ってきます。例えば、卒業論文で求められる「新しさ」と、博士論文で求められる「新しさ」とは大きく異なります。

自分が取り組もうとしている内容が「新しい」研究と言えるのかどうかは、先生から随時アドバイスをいただくのが良いでしょう。

論文では、これまで研究されたことを示したうえで、自分の研究の新しさ、すなわち、研究の意義を示す必要があります。

実際に論文に書いていく必要がある、という意味でも、先行研究調査は研究に欠かせないプロセスと言えるでしょう。

2つのアプローチ

文献データベースによる検索

キーワードを使って、文献情報を検索する

メリット：適切に活用すれば、多くの文献を発見可能

デメリット：使い方を誤ると、見逃しが多く発生する

参考文献をたどる[芋づる式]

注目した論文を軸に、引用をたどっていく

メリット：研究の流れを掴みやすく、理解を広げやすい

デメリット：参照関係に含まれていない関連文献を見落とす可能性

卒論・研究きちんとスタート①日本語文献探索のキソ

先行研究調査には主に2つの方法があります。

1つ目は、文献データベースによる検索です。

「文献検索」と聞いて皆さんがまず思い浮かべるのはこちらではないでしょうか。

メリットとしては、適切に活用すれば、多くの文献を発見できることがあります。一方、デメリットとしては、使い方を誤ると見逃しが多く発生してしまうことがあります。つまり、文献データベースは「適切に」活用することが重要になってきます。

人文社会科学系の日本語文献を検索するためのデータベースは、総じて高度な機能が無く、うまく活用しなければこのようなデメリットが発生しがちです。

本教材の後半では、そういったデータベース検索のコツを中心にご紹介していきます。

もう1つの方法として、参考文献をたどる、「芋づる式」という方法があります。

次の章では、この「芋づる式」の調査方法について詳しくご紹介します。

文献データベースによる検索および芋づる式調査という2つのアプローチに

は、それぞれにメリット・デメリットがあるので、うまく併用していくことが大切です。